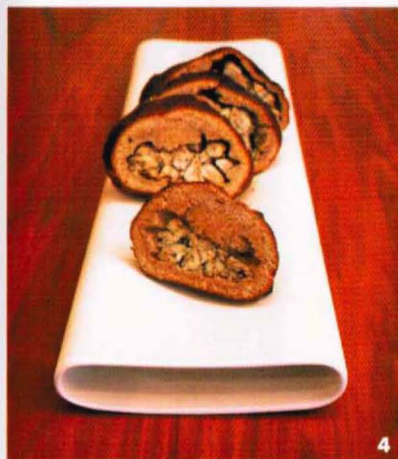


今年、来年と景観プロジェクトが完成予定

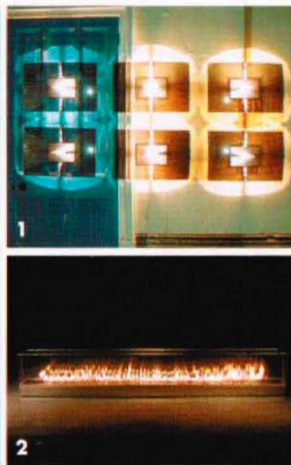
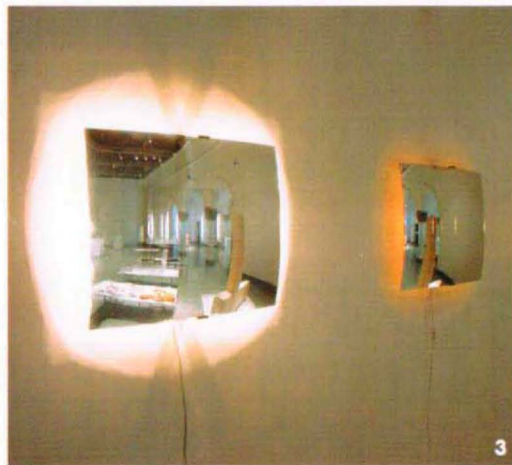
1969年生まれ。ロバニエミでグラフィックデザインを学んだ後、ヘルシンキ工科大学で家具、インテリアデザインを学ぶ。基本的には一人で仕事をしているが、8人のデザイナーが集まっているネットワークオフィス「DNA」、さらには、景観デザイン設計グループ「ARBA」のメンバーとして大きなプロジェクトに加わる。家具デザインのほかに、景観デザインを手がけている。今年、来年と、彼が景観デザインしたプロジェクトが次々完成する予定。



1 2002年、P.O.Korhonen社から発表した「CLASH」チェア。本体と、逆V字形の脚は、ぶつける(クラッシュ)ことでジョイントする。2 積み重ねた姿も美しい。日本での扱いはPG Gallery。



1 シュガーボット付きクリーマ「Newton」。2 コンテンポラリーデザインのティーセット「Warm」。ボットにもカップにも、取っ手が付いていない代わりに、手で持ちやすいように木のベースをプラス。限りなく日本茶がお似合い。3 テーブルで使えるレモン絞り。4 フォルムがおもしろいフルーツ皿。「Tonfisk」の日本での扱いはスキャンデックス。



1, 3 ダブリンにある「Spy Club」のエントランスのためにデザインされた「LampLamp」。照明をつけていないときは鏡になる。2000年のデザイン。2 北欧の長い冬を過ごすためには暖炉は必需品だが、これはクールなデザインの変。「Firebox-long」。'01年のデザイン。

Timo Salli

ティモ・サリ

プロダクト&展示デザイン

ユニークな発想の作品。実物が見たい!

彼も、1997年のミラノ・サローネで、スノウクラッシュから作品を発表していた一人だ。今年10月の「現代フィンランドデザイン展」にも出品する。'63年生まれ。自分のスタジオを持つ前の3年間は、ステファン・リンドフォースのスタジオに在籍した。カッペリーニ、コルホネン、デザインフォーラム・フィンランドなどから作品を発表している。2002年のクラエッソンデザインチーム賞など、数々の賞を受賞。

Tony Alfström & Brian Keany

トニー・アルフストルム & ブライアン・キーネイ

セラミックデザイン

アイデアが楽しいテーブルウェア



トニーは1972年ヘルシンキ生まれ、ブライアンは'74年生まれのアイルランド。ヘルシンキの芸術デザイン大学でセラミックとガラスを学んでいるときに知り合った2人は'99年、テーブルウェアの「Tonfisk」を立ち上げた。Tonfiskとは、スウェーデン語で「Tuna(まぐろ)」の意味。どこにでもありそうなのに、アイデアが生きる素材。そんなテーブルウェアを目指している。stonとした食器は、和のテーブルでも十分に通用する雰囲気を感じさせる。